

令和3年度 第5回 北杜市総合計画審議会
《会議録》

- 1 日 時 令和3年11月8日(月) 14:00~16:30
- 2 場 所 北杜市役所 北館3階 大会議室
- 3 出席者 【会長】藤原真史
【副会長】北原正倫 矢野 望
【委員】小川昭二 村田 茂 清水 精 小池雅美 内藤和心 堀内敏光
小林喜文 安達義通 花谷泰広 井上能孝 浅川英三
功刀孝次郎 佐野 極 矢崎憲恒 渡邊雅人 飯田直也
下田実奈 飛矢崎雅也(敬称略)
【市役所】市長 上村英司
副市長 小林 明
教育長 輿水清司
政策秘書部長 宮川勇人 企画部長 中田治仁
総務部長 中山晃彦 健幸市民部長 八巻弥生
福祉部長 伴野法子 森林環境部長 大芝 一
産業観光部長 輿水伸二 建設部長 大輪 弘
教育部長 加藤 寿 上下水道局長 浅川和也
【事務局】政策推進課長 浅川 豪
政策推進課 計画推進担当 向井幹裕 篠原 亮 有賀 翼
【委託業者】特定非営利活動法人SCOP 木亦千尋
- 4 欠席委員 小池 啓一委員 中澤尚志委員 日野水丈士委員
- 5 会議録署名 功刀孝次郎委員 佐野 極委員
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍 聴 なし
- 8 会議内容 1) 開会
2) 挨拶
3) 議題
① [報告] 2019年市民アンケート結果の再分析結果
② [報告] 新・行政改革大綱の策定状況について
③ [報告] 子ども育成戦略会議からの提言について
④ [協議] 第3次北杜市総合計画の素々案について
4) その他
5) 閉会

9 会議経過

1) 開会

2) 挨拶

(会長挨拶要旨)

- 本日は、北杜市の地域資源を活かした基本構想（素々案）となっているか、皆さんの多面的多角的な観点から北杜市の魅力を引き出す素々案になっているか、ご意見をいただきたい。

(市長挨拶要旨)

- 新たな総合計画の策定に当たっては、10年後に豊かな自然環境のもとで、子どもが賑わい、誰もが幸せを実感できる北杜市を目指した計画となるよう、十分意識して策定を進めた。これまでのご審議を踏まえ、総合計画の素々案としてとりまとめたところであり、本日は、この素々案について、ご審議いただきたい。
- また、10年後に子どもが賑わう夢かなうまちの実現に向けて、出生率の向上と、子育て世帯の移住定住の増加策を検討する「ほくと子ども育成戦略会議」から、具体的なお提言をいただいたところであり、本審議会の中でその内容についてご報告させていただく。
- 本日の審議を踏まえ、今月22日に予定している第6回の審議会において、総合計画の素案をとりまとめる。委員の皆様には、「ほくと子ども育成戦略会議」からの提言の内容にも留意しながら、様々な視点から忌憚のないご意見をいただきたい。

3) 議事

議題① [報告] 2019年市民アンケート結果の再分析結果

事務局（委託業者：SCOP）から資料1について説明。委員からの質疑等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
委員	若い世代のサンプル数は175件とあるが、18～39歳の総数は何名なのか。
事務局	18～39歳の総数は手元に資料がないため、後日、回答させていただきたい。
委員	私が以前提案した件に対応いただき感謝申し上げます。

議題② [報告] 新・行政改革大綱の策定状況について

事務局から資料2について説明。委員からの質疑等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
委員	<p>1点目は、資料2【3 改革を進める視点と重点的な柱（合併団体としてあるべき行政運営の視点）】の「○合併前の旧町村単位を基本とした行政運営から脱却し～」の部分に“スケールメリットを生かした”とあるが具体的にはどういうことか。</p> <p>2点目は、【(公共施設等管理の計画の概要)】の部分に“次期計画では更新時期の有無に関わらず現在保有する～”とあるが、ここに記載のある市役所庁舎や中学校、保育園もすべて含む認識でいいか。</p> <p>3点目は、資料2の2ページ目【5 行政改革の取組】の「柱4 開かれた行政運営の推進」に“市民の行動変容を促す～”とあるが、市民の行動変容について具体的にどのように変容することを想定しているのか確認したい。</p>
事務局	<p>合併のスケールメリットについては、行財政の効率化や広域的な地域づくり、新たな行政ニーズに対応できる行政体制の確保などの効果がある。本市では、合併から17年経っているが、現在もなお、旧町村単位で類似公共施設が設置されているなど、合理的な施設配置や人員配置となっていないことが課題である。人口減少など社会的背景を考慮した上で公共施設の再編・統合等を進め、効率性、機能性を高めていく必要があると考えている。</p> <p>公共施設等総合管理計画の方向性としては、これまでは「今後30年間で義務的施設を除いた更新時期を迎えた公共施設」を対象としていたが、改訂案では全ての公共施設を対象にしている。</p> <p>行動変容への考え方は、例えば少子高齢化が加速し、人口減少が進む中で、ますます地域の支え合い、市政に対する参画・協働が重要であり、そういった行動を促していく必要があると考えている。</p>
部長	<p>2点目の公共施設の回答の補足で、対象施設については全ての施設と説明したが、し尿処理施設と火葬場は対象外である。</p>

議題③ [報告] 子ども育成戦略会議からの提言について

事務局から資料3について説明。委員からの質疑等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
委員	この提言書は、11ページに記載のある委員が出した意見である。行政やコンサルタントは入っておらず、市民の意見が反映されていると考える。ぜひ、総合計画に取り入れていただきたい。
委員	子ども育成戦略会議の委員任期は、1年ではなく2年ではないか。また、全体の期間の中で、この提言はどのような位置付けなのか。 先ほどの資料2に戻るが、【3 改革を進める視点と重点的な柱】の「4つの改革の柱」に記載のある“市民目線での改革”とは具体的にどのようなことを指すのか。
事務局	子ども育成戦略会議については、委員任期は2年となっている。今回は、総合計画の策定にあたり、市民参画の一つとして提言をまとめていただいた。 来年度は、提言書の総合計画への反映状況を確認しつつ、掘り下げて補足する部分等について検証するなど、引き続き、ご意見をいただきたいと考えている。 市民目線での改革については、総合計画にも示す市民参加・協働の推進をはじめ、市が抱える課題解決のプロセスへの市民参加などを通じて、限られた経営資源の中で市民が必要としているサービスを適切に提供するための行財政運営を考えている。
委員	子ども育成戦略会議の説明が理解できなかった。来年度意見を伺いたいというのは、今回の提言をたたき台にし、どのようにしていくのか。
事務局	今回の提言を受けて総合計画策定の検討の参考にするとともに、具体的な取組を進めると決めたものについては予算に反映をしていく。まずは、策定された総合計画の内容を報告し、更に提言の内容を掘り下げて議論したり、新たなテーマ、課題などについて、ご意見を伺っていきたいと考えている。
委員	8ページ【移住・関係人口の増加】に“大学の付属学校を誘致する”とあるが、以前小淵沢に帝京大学の付属学校があったと思うが、出て行ってしまったと思う。その経緯や、誘致する場合の候補地など想定しているものはあるのか。

事務局 | 以前、市内にあった帝京大学の付属学校に関する情報は持ち合わせていないので、状況を確認して後日報告する。

議題④〔協議〕第3次北杜市総合計画の素々案について

事務局から資料5「基本構想」について説明。委員からの質疑や意見等については、次のとおり。

(発言者)	(発言内容)
委員	【第4章 2030年、地域のありたい姿】に関して、各項目の内容に北杜市らしさを感じることができず物足りなさを感じた。具体的な固有名詞がより入っていたほうが、市民も実感が湧くと思う。
委員	今回の総合計画では子どもの数の増加、子育て・若い世代に選ばれる地域であるかが大きなテーマである。その視点から考えると、素々案ではあるがよく整備されている計画だと感じた。自身が北杜市を選ぶ場合、最初に考えるのは働き場所があり家族を養えるか、2点目は住む場所を確保できるか、3点目は家族が平穏に生活できるか、これらが担保されることが重要と思う。これらの視点を総合的に展開したときに若い人達が初めて北杜市を選んでくれると思う。総合計画のなかでそれぞれの施策を総合的に展開することをアピールする箇所が必要だと考える。
委員	14ページ【ともに、よりよく生きるまち】のリーディングプロジェクトに「市民総活躍のまちづくり」とあるが、18ページには「市民総参画のまちづくり」と記載がある。どちらが正しいか。
事務局	「市民総活躍」が正しい。18ページの訂正をお願いする。
委員	「市民総活躍のまちづくり」の表現は微妙だと感じる。「総」を使うと強制的で押し付けられているように感じる。市民活躍のまちづくりに変更し「総」を使い市民を動員するような表現は避けた方がいいと考える。
委員	総合計画を市民に読んでもらい市民が北杜市の将来を想像すると考えたとき、市民自身が将来どのように住んでいるか分かったほうが想像しやすいと思う。 また、移住者が総合計画を読み、移住したいと思うようなものであるべきだと思う。 例えば、一家が2030年に北杜市で暮らす姿を、モデルケースの挿絵や概念図

として挿入できればよいと思う。

議長 計画本体に挿入するのか、広報や市民向けの資料に挿入するべきか、考えがあれば伺いたい。

委員 モデルケースがあったほうが市民に読んでもらえるので、それを利用して広報をしてほしい。

委員 見慣れたからかもしれないが、すっきりして見やすくなった。
計画に書かれている課題は、北杜市のみならず日本全体での課題でもある。日本全体で少子高齢化が進む中、北杜市だけがこの施策を実現させるのは難しく、実現させるためには基本計画や具体的な施策の中で、特色を出さないといけないと考える。

今後、本当に実現するための議論が必要である。

委員 キャッチコピーがすっきりしているが、「豊かさ」の視点が不足していると感じた。Well-Being、サステナブルに込められていると思うが、生活・人生・自然の豊かさをより表現できたらよいのではないか。

事務局から資料5「基本計画」について説明。委員からの質疑や意見等については、次のとおり。

(発言者)

(発言内容)

委員 資料5の20、21ページの各リーディングプロジェクトに「《新規・重点・横断的に取り組む主な取組を整理して記述します。》」とあるが、具体的でわかりやすい取組を記載するのか。

20ページの「数値目標 (KGI)」にはどのようなものが記載されるのか。

また、2ページの基本計画【中期ビジョン】の推進期間の西暦表記、19ページのリーディングプロジェクト4、5の重点プロジェクトの表記が誤っている。

議長 「新規・重点・横断的に取り組む主な取組」「数値目標 (KGI)」に関して、事務局から現在の検討状況について説明いただきたい。

事務局 「新規・重点・横断的に取り組む主な取組」に関しては、「ありがたい姿」の実現に向けて、10本の重点プロジェクトごとに先導的な役割を担う施策を記載してある視点を踏まえ設定する予定。

「数値目標（KGI）」に関しては、第2回会議にて検討段階としてお示ししたものを現在、検討している。具体的には、年少人口の転入者数、合計特殊出生率や20～40歳子育て世代の満足度などを考えている。

議長

「新規・重点・横断的に取り組む主な取組」には、部門別計画の施策がそのまま記載されるのか、統廃合した上で記載されるのか。

また、「数値目標（KGI）」は、ありたい姿を検証することができるような数値が記載されるのか補足説明をいただきたい。

事務局

リーディングプロジェクトへの記載方法については、部門別計画に記載してある施策内容を踏まえた中で、単独の施策も複数にまたがる施策のいずれも伝わりやすさを重要視するため、より短い文章で、ありたい姿と関係させるような表現にして記載していきたい。

「数値目標（KGI）」は、ありたい姿の実現の状況を測定できるものを示していきたい。

委員

リーディングプロジェクトの作りに違和感があり、基本構想を2回見ている気がする。ありたい姿に「子どもの笑顔が自分の笑顔になるまち」とあり、リーディングプロジェクトに「子育て・教育で選ばれるまちづくり」とある。2回も立てる必要はあるのか。

また、“プロジェクト”は、どのような意味合いで使っているのか。プロジェクト＝事業と認識しているが、内容が理念や方向性となっており具体的なプロジェクトになっていない。リーディングプロジェクトに具体的な施策をたてるか、リーディングエリアに名称を変えるべきだと思う。

「子どもの笑顔が自分の笑顔になるまち」がありたい姿であるならば、リーディングプロジェクト名は「子どもの笑顔が自分の笑顔になるまちづくり」であれば流れがよいと思う。

事務局

5つのありたい姿を掲げ、その実現に向けて部門別計画からさらに的を絞って優先的、重点的に取り組んでいくものをリーディングプロジェクトとしている。

また、今後、リーディングプロジェクトの位置づけの方向性を明確に示したうえで、「新規・重点・横断的に取り組む主な取組」を具体的に記載していく予定で、次回までには整理したい。

委員

「ありたい姿」「リーディングプロジェクト」「重点プロジェクト」が複雑なため、もう少し整理すべきである。基本構想は、他の自治体が掲げてもおかしくない目標である。北杜市らしさをだすにはリーディングプロジェクトで北杜

市の特色を相当出さないと、魂のこもった計画にならない。各々のカテゴリーの中で日本をリードするような、エッジのきいた施策を打ち出すべきだと考える。

また、29ページのLP5-2に「ゼロカーボンシティをつくる」とある。「ゼロカーボンシティ」には、様々な定義があると思うが、その定義を教えてほしい。北杜市がゼロカーボンシティやカーボンニュートラルを目指すのであれば林業も含めて謳ってほしいと思う。

部長

ゼロカーボンシティに関しては、昨年度、北杜市が2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指していくゼロカーボンシティを宣言している。

二酸化炭素の排出を完全にゼロに抑えることは現実的に難しいため、排出せざるを得なかった分については同じ量を吸収または除去することで、差し引きゼロを目指すカーボンニュートラルがベースになるので表現等を検討していきたい。

なお、林業については様々な施策を実施しているので、その表現についても検討していきたい。

委員

資料5（補足2）【部門別計画体系の見直し】の「見直し後の体系」に関して、「ひと・しごと・まち」に区分して各部門の順序を見直したとのことだが、「第1部 子育て・教育・若者」「第2部 健康・福祉」「第3部 市民生活・文化」となっており、同じ【ひと】に区分されている「第2部 健康・福祉」「第3部 市民生活・文化」がこの順番なのか説明を求めたい。

事務局

部門別計画の順序に関して、まず「健康・福祉」は市民全ての共通の願いであり、生涯を通じた生活基盤の安定を確保したうえで「市民生活・文化」に取り組むこととで市民の生活がより潤いのある豊かなものになると考え、この構成としている。

委員

順位付けをしていると感じたが、私はどちらも甲乙つけがたく優劣つけるものではないと思う。ここで考慮すべきは他部門とのかみ合わせ、有機的な連関だと考える。資料5（補足3）を参考にすると「第1部 子育て・教育・若者」と「第3部 市民生活・文化」の連関度が高いことが分かる。これらの点から「第3部 市民生活・文化」を第2部に変更すべきと考える。

また、資料5（補足2）に「地方への新しい人の流れを作る」とあるが、そのためには「市民の潤いのある豊かな生活環境を整備する」ことが必要だと思う。同じ【ひと】に区分されているのであれば「第2部 健康・福祉」「第3部 市民生活・文化」の順序を変更したほうが、全体的に考えて良い。

- 委員 市長の公約に「子どもの数を2倍にする」ことを掲げていることから、若い世代に優先度の高い施策が重点項目になると思うが具体的に反映されていないと感じる。
- 例えば、資料1では「仕事を探す時の求人情報や企業ガイダンス」「地元企業や新たな企業の立地による働く場所の確保」の優先順位が高くなっているが、産業の項目内にこれらの項目が無いように見受けられる。
- これからリーディングプロジェクトに入ってくるかもしれないが、もう少し強調してほしい。
- 委員 転入者の施策の中に、北杜市で生まれ育った人が帰ってきたくなるUターンの施策を追加してほしい。
- また、用語集はページの最後につけるとのことだが、各ページに記載することはできるのか。各ページの方が読みやすいと思う。
- 事務局 用語集は、ページ構成的に現時点では冊子の最後につけるイメージである。挿入スペース的な問題もあるが、できる限り、わかりやすい形を目指して検討していきたい。
- 議長 見やすさも含めて検討していただきたい。基本構想部門は各ページの下に用語説明があるので、相互性も含めて検討していただきたい。
- 委員 資料5の67ページ【5-1-1 減災力の強いまちづくり】の＜消防活動、消防団の充実強化＞に「消防団の組織については、再編も含め～」とあるが、明後日、再編会議にてこの項目に関して議論するので、意見がある場合は文章で提出させていただきたい。
- 委員 第2回審議会の際にPDCAサイクルについて質問をしたが、返答は「今後の検討のなかで考え方・方法を示す予定です。」であった。
- 地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引きの中でもPDCAサイクルの確立運用が謳われている。総合戦略を兼ねるのであれPDCAサイクルは表記すべきだと考える。記載せずに方向性のみ説明しても、どこで検証・効果検証するのか不明確になると危惧している。北杜市の行政評価の実施に関する要綱に沿ってやるのであれば北杜市総合計画に記載された事業を行政評価の対象として、事前評価、事後評価として事務事業を外部評価をするという形式になっているので、これらと連動した運用体制ができるとうい考える。

事務局	<p>PDCAサイクルに関しては、現在検討している。今回の総合計画は行政改革大綱と併せて一つに取りまとめるため、進行管理・評価検証のあり方をどのような形にするべきか検討中である。</p> <p>その方針については、次回に提案させていただきたい。また、「進捗管理」に関する部分は、第3部の手前あたりに加える予定である。</p>
委員	<p>41ページ【1-5-2 多様な住まいの確保支援】の「子育て支援住宅」に関して、維持管理と入居者募集とあるが、空きが出れば入居者募集をするのは当たり前である。退去者が今後、北杜市に家を構えてもらえるよう促進するといった文言を追加してほしい。</p> <p>また、「市営住宅」に関して、「女性や若者等」と表記しているが一括りで「子育て世代の多様なニーズ」でよいと思う。</p>
委員	<p>39ページ【1-4-1 信頼される学校教育の推進】に関して、「フリースクール」から「教育支援センター「エール」等」に表記が変わっていることに対して前回意見を述べたが、やはり幅を持たせて当初の「フリースクール」に表記を変更していただきたい。</p> <p>また、53ページ【3-2-1 社会教育の充実】に関して、今後地域に学校を開いていくにあたって、社会教育主事の役割が大きくなっていくと思う。社会教育主事の増員を明確に記すべきだと考える。</p>
委員	<p>リーディングプロジェクトについて、プロジェクトには「未来を創る戦略」「未来に備える戦略」が記載されているが、戦略に偏りがある。その理由を教えてください。</p>
事務局	<p>「未来を創る戦略」は人口減少を緩和し、産業を活性化すること、「未来に備える戦略」は人口減少に上手く対応していくことを目指している。</p> <p>各プロジェクトの施策レベルでは双方の要素が入っていることは認識しているが、今回、子どもが賑わう夢かなうまちを実現させるため、【LP1 子育て・教育で選ばれるまちづくり】の政策レベルでは、人口減少対策、産業活性化に重点的に取り組んでいくと考え「未来を創る戦略」を置いている。</p> <p>【LP2 市民総活躍のまちづくり】は、充実した暮らしを基盤とし、人口減少に伴い地域コミュニティが希薄になっている中、今まで以上に地域の繋がりが求められているので、「未来を創る戦略」「未来に備える戦略」の双方を置いている。</p> <p>【LP3 世界を惹きつけるまちづくり】は、今持っている北杜市の強みを活かし、より関係者を増やし、積極的な展開をするため活性化に向けた「未来を創る戦略」を置いている。</p>

【LP4 地域資源を守り育てるまちづくり】は、地域資源の価値を高めて、活性化に結び付けていきたいと考えているので「未来を創る戦略」「未来に備える戦略」を置いている。

【LP5 変化に強い安心できるまちづくり】は、災害に強い環境に配慮した地域の基盤を備えるという位置づけで「未来に備える戦略」を設定している。

委員 「未来に備える戦略」を最低限行っただけで「未来を創る戦略」を行うべきだと考える。各項目バランスよくあればよいと思う。

委員 「健康・福祉」に関して、健康・介護・高齢者福祉と市役所の各担当部門に沿った施策になっているが、市民目線であればこれらは一気通貫なのでまとめた施策を打つべきであり、これが北杜市らしいエッジのきいたものになると考える。

DXを活用したり、高齢者に向けてアナログ対応をしたり、ヘルスケアステーションの先行実施を提案したい。

60ページ【4-2 感動を届ける観光のまちづくりの推進】に「世界を魅了」とあるが記載されている内容はグローバルではない。今後、ウィズコロナとして展望するためには、グローバルを意識した観光施策が入るべきと考える。

委員 39ページに関して前回意見を出した、部活動指導員の配置・拡大、合同部活動や地域スポーツクラブ等の支援が今回も入っていない。部活動の問題は従来のやり方では対応できない。この問題を地域みんなで担っていくべきと感じている。是非記載してほしい。

51ページ【3-1-1 市民参加機会の創出】に関して、「対話やワークショップ」に加え、パブリックインボルブメントが今後重要な手法だと考えており、文言を入れていただきたい。

リーディングプロジェクトに関して、【LP3 世界を惹きつけるまちづくり】に「リニア中央新幹線や中部横断自動車道の開通等により～」とあるが強みである反面、ストロー現象にも留意すべき。

29ページ「“自助”“共助”“公助”“の役割の視点”とあるが、移住者には”自助”“はハードルが高い。「公助”“共助”“自助”“の役割の視点”に変更したほうが、行政が信頼されるのではないかと。

4) その他

- 次回は、11月22日（月）14時から市役所大会議室（本日と同会場）で開催する。

5) 閉会 [16:30]